

## 研究報告

# ナイチンゲールの3文献にみる 公衆衛生看護思想の特徴

## Characteristics of Public Health Nursing Thoughts in the Three Literature of Florence Nightingale

魚崎 須美<sup>1)</sup> 金井 一薫<sup>2)</sup>

### 【要旨】

膨大な著作を書き遺したフロレンス・ナイチンゲール(1820-1910)は、その著作群において、いくつかの明確な概念を書籍で著している。『看護覚え書』『病院覚え書』『救貧覚え書』『産院覚え書・序説』などがそれである。しかし、ナイチンゲールが築いた“地域看護”や“公衆衛生看護”という実践形態は、今日につながるきわめて重要なテーマであるが、彼女はこれを一冊の書籍によって著すことはなかった。本研究では、ナイチンゲールが書き遺した3文献を手掛かりに、ナイチンゲールが提起した“地域看護”や“公衆衛生看護”について取り上げ、彼女の公衆衛生看護思想の特徴を明らかにするものである。

対象とした3文献は、1. 「Trained Nursing for the Sick Poor (貧しい病人のための看護)」(1876)、2. 「Sick-Nursing and Health-Nursing (病人の看護と健康を守る看護)」(1893)、3. 「Health Teachings in Towns and Villages (町や村での健康教育)」(1894)である。3文献を“テキストマイニング”の手法を用

いて分析し、ナイチンゲール公衆衛生看護思想の“視覚化”を行った。

ナイチンゲールは3文献において、病人を家庭で看護するDistrict Nurse (地域看護師)の必要性とその組織づくりに力を注いでいること、さらに地域全体(Community/Public)の衛生問題にかかわるHealth Missioner (保健指導員、後の保健師)を創設して、看護という機能がもつ多様性について言及し、看護師を国民の健康を守る主役として位置づけていることが明確になった。

### 【キーワード】

・ナイチンゲール文献 ・公衆衛生看護史  
・地域看護師 ・保健指導員 ・テキストマイニング

### 【Abstract】

In this study, we made explicit what characteristics Florence Nightingale (1820-1910) had in her thoughts on public health nursing, having carefully analyzed the three pieces from Nightingale's literature as a key clue to appreciate her signature novel notions such as

1) 神戸常盤大学保健科学部看護学科

2) 徳島文理大学大学院看護学研究科

“community nursing” and “public health nursing”.

The three pieces of Nightingale’s literature we selected for this study were 1) “Trained Nursing for the Sick Poor” (1876), 2) “Sick-Nursing and Health-Nursing” (1893), 3) “Health Teachings in Towns and Villages” (1894).

On these texts, we carried out the analyses by text mining.

In the enormous amount of her literature, Florence Nightingale advanced many clear innovative views such as “sick nursing”, the practice of which, she advocated, must be done in strict line with “real nursing” as she depicted in *Notes on Nursing: What It Is and What It Is Not* (1859), *Notes on Hospitals* (1863), *Notes on Pauperism* (1869), *Introductory Notes on Lying-in Institutions* (1871), and so forth. In addition to all these, however, Nightingale gave an eye to the world outside the hospital, made a much great effort in awaking the public to the need of the “district nurse (nurses who care the sick at home)” and set out to organize their operational institutions. The unprecedented post she established was the health missionary, whose mission was responsible for the public health of a whole community assigned. In view of diverse functions of nursing, Nightingale endeavored to settle the nurse as the leading role in protecting the health of the public.

## 【Keywords】

- Florence Nightingale’s literature
- History of public health nursing
- District nurse

- Health missionary
- Text mining

## I. 序論

本研究の背景として、以下の2点について述べる。

### (1) ナイチンゲール公衆衛生看護思想の“視覚化”への試み

看護史研究者として著名なルーシー・セイマー(Lucy Seymour; 1893-1971)は、ナイチンゲールがクリミア戦争へ出立100周年を記念して出版した『Selected Writings of Florence Nightingale』(1954)の序文において、次のように述べている。「1893年になると、フロレンス・ナイチンゲールの精神にあるひとつの変化が訪れたようだ。通常、多くの年配の女性は、晩年になると自分の考えを広げることができなくなるものだが、彼女はそうではなく、“予防看護”とも呼ぶべきものの最重要性をはっきりとわかっていた。彼女はそれを“健康への看護 (health nursing)”とも言っているのだが、現在では“公衆衛生”に分類されている多くの基本原則について概説している<sup>1)</sup>。」

膨大な著作を書き遺したナイチンゲールは、その著作群において、いくつかの明確な概念を書籍で著している。『看護覚え書』『病院覚え書』『救貧覚え書』『産院覚え書・序説』などがそれである。しかし、ルーシー・セイマーの言にあるように、ナイチンゲールが築いた“予防看護”や“健康への看護”という概念については、彼女はこれを一冊の書籍によって著すことはなかった。そこで本研究では、ナイチンゲールが書き遺した文献の中から選んだ3文献を手掛かりに、ナイチンゲールが提起した“予防看護”や“地域看護”また“公衆衛生看護”について取り上げ、ナイチンゲールによる公衆衛生看護思想の特徴を明らかにしたい。

ナイチンゲール文献の中から3文献を選んだ理由は

次の通りである。

文献1「Trained Nursing for the Sick Poor (貧しい病人のための看護)」<sup>2)</sup>(1876)は、ナイチンゲール看護学校の卒業生であるフロレンス・リーによって推進された「首都圏ならびに全国看護協会」の活動を支援するために、タイムズ紙に寄稿されたものである。1861年、ナイチンゲールがウィリアム・ラスボーンから受け取った一通の手紙がきっかけで始まった訪問看護制度は、その後大きな成果を挙げてきたが、ナイチンゲールはロンドンにもこのような働きをする看護婦が必要であると考えていた。この協会は貧しい病人のために訓練された看護婦を派遣するための組織で、本論文は協会への経済的支援を呼びかけたナイチンゲールからの懇願状である。貧しい病人の家庭に派遣される地域看護婦たちが適切な仕事をするためには、彼女たちが暮らす“ホーム”が必要であり、そのためには費用がかかるというのが支援を請う主な理由である。さらにナイチンゲールは本論文を通して、地域看護婦はどのような状態にあるべきか、また何をすべきかについても語っている。

文献2「Sick-Nursing and Health-Nursing (病人の看護と健康を守る看護)」<sup>3)</sup>(1893)は、1886年に始まった「看護婦登録制度」の争議の結末に、ナイチンゲールがクリスチャン王女に捧げる講義論稿として著された論文である。それが1893年、女性の職業に関するシカゴ博覧会において朗読された。「看護婦登録制度」に関する争議は、ナイチンゲールにとって生涯をかけた“看護の根本原理が問われるもの”<sup>4)</sup>であっただけに、この論稿にはナイチンゲール看護思想の原核ともいえる考えが込められている。そして、本論文の補遺に記述してある保健指導員の養成計画と講義内容の要旨は、次に紹介する文献3につながっている。

文献3「Health Teachings in Towns and Villages

; Rural Hygiene (町や村での健康教育)」<sup>5)</sup>(1894)は、1893年11月にリーズで開催された「働く女性の中央会議」のために執筆され、フレデリック・ヴァーネイ氏により代読された論文である。この論文が執筆された当時には、既に地域看護婦の養成が各地で進められつつあった。保健指導員には地域看護婦を補佐する役割が期待されていた。そして地域看護婦には、病人の看護婦であると同時に保健指導員でもあることが求められていた。文献3には、農村衛生の現状、農村衛生の機構改革、そして保健指導員養成の必要性および養成のための訓練教育について記述されている。

本研究では、上記のような性質をもつ3文献をテキストマイニングの手法を使って分析することで、各文献の特徴を明確化し、同時に3文献全体を貫くナイチンゲールによる地域看護の考え方や公衆衛生看護思想の特徴を明らかにしたいと考えた。これはナイチンゲール公衆衛生看護思想の“視覚化”への試みである。

## (2) 19世紀英国における公衆衛生の発展と公衆衛生看護の位置づけ

多田羅によると<sup>6)</sup>、英国においては、大学で医学を学び貴族や富裕層の人々を診る内科医フィジシャン(physician)と、アポセカリー(apothecary)と呼ばれる一般医が存在した。アポセカリーは、元来、食料品組合に属しており、身体に不調を感じて店を訪れた人の相談にのって、症状に対応する薬の調剤を行った。フィジシャンの処方に基づいて調剤をしたのもアポセカリーである。英国では、二種類の医師が存在したという系譜を受けて、現在においてもフィジシャンを祖とし病院を拠点とする専門医と、アポセカリーを祖とし地域を拠点とする一般医が存在する。その二種類の医師が病院の医療と地域の医療をそれぞれ分担するという構造が生まれ、英国における医療の基本形が発展した。

では、公衆衛生看護活動は英国における地域医療の中でどのように位置づけられてきたのだろうか。ルーシー・セイマーによると<sup>1)</sup>、「尼僧ではない一般職業看護婦による組織化された訪問看護の歴史はどうしても1859年以前にはさかのぼれないようである。この年イギリスのリヴァプールでウィリアム＝ラスボーンがそれを開始した」と記されている。ラスボーンによって展開された訪問看護活動は、訪問看護婦養成への道を拓き、その後の地域看護活動を支えてきた。公衆衛生看護活動は地域看護活動と並行して行われている。したがって、公衆衛生看護は英国の医療のなかでは、地域を拠点とする一般医たちとその活動を共にする職種として存在し、地方行政のしくみの中で発展してきたと言えよう。

さて、公衆衛生看護はすべての人々を対象とした、公衆衛生の理念に基づく看護活動である。日本公衆衛生看護学会は、公衆衛生看護を以下のように定義している。

「公衆衛生看護の対象は、あらゆるライフステージにある、すべての健康レベルの個人と家族、及びその人々が生活し活動する集団、組織、地域などのコミュニティである。公衆衛生看護の目的は、自らの健康やQOLを維持・改善する能力の向上及び対象を取り巻く環境の改善を支援することにより、健康の保持増進、健康障害の予防と回復を促進し、もって人々の生命の延伸、社会の安寧に寄与することである。公衆衛生看護は、これらの目的を達成するために、社会的公正を活動の規範におき、系統的な情報収集と分析により明確化若しくは予測した、個人や家族の健康課題とコミュニティの健康課題を連動させながら、対象の生活に視点をのこした支援を行う。さらに、対象とするコミュニティや関係機関と協働し、社会資源の創造と組織化を行うことにより対象の健康を支えるシステムを創生する。」

上記の日本公衆衛生看護学会の定義を参考に用いれば、ナイチンゲールが3文献で主張した内容は、今日定義されている内容とどれだけの一致をみるのだろうか。定義に照らし合わせてナイチンゲールの公衆衛生看護思想を考察してみたい。

なお、「看護婦」という表現は現代では職業における性差を表す語としてそぐわなくなっているが、3文献が執筆された時代には他者の健康に責任を持つ女性に対して「nurse」が使用されていた背景がある。本研究は歴史研究であり、文中では歴史的用語としての「看護婦」を使用することとした。

## II. 文献検討をとおして

医学中央雑誌webによる先行文献検討を行った。その結果からナイチンゲール思想と公衆衛生とを結びつけ、直筆の文献を分析した研究論文は極めて少ないことが判明した。

結果は以下の通りである。

- #1 (公衆衛生/TH or 公衆衛生/AL) 1,833,250文献
- #2 (公衆衛生看護/TH or 公衆衛生看護/AL) 6,592文献
- #3 (地域看護/TH or 地域看護/AL) 3,520文献
- #4 (ナイチンゲール F. /TH or ナイチンゲール/AL) 790文献
- #5 (#1 or #2 or #3) and #4 166文献
- #6 (#5) and (PT=原著) 21文献

21文献のうち、ナイチンゲール文献そのものを研究対象とした文献は、名原(1993)による「ナイチンゲールが臨床を変えるーナイチンゲールに公衆衛生看護の本質を学ぶ」、山下(2018)による「『町や村での健康教育-農村の衛生』における保健師活動の特徴」、金井(2021)による「フロレンス・ナイチンゲール著『産院覚え書・序説』再考ー助産事業と助産師教育に対す

るナイチンゲール思想の原点」の3文献であった。これら3文献は、ナイチンゲールの直筆の文献を研究対象としているものの、彼女の公衆衛生看護思想を構造化し、かつ視覚化するという作業は行っていない。また、小川(2016)による「Home Nursing in the 21<sup>st</sup> Century Conceptualize by Nightingale」はテキストマイニングの手法を用い、ナイチンゲール文献から時代背景を踏まえた在宅看護概念の視覚化を試みているが、公衆衛生看護思想を扱ったものではない。

海外文献検討はCINAHL、MEDLINEの2データベースを使い、検索を行った。キーワードには、「Florence Nightingale」and「public health」を用いた。CINAHL 52文献とMEDLINE 285文献のうち重複文献を削除したところ321文献となった。さらに321文献のタイトルからナイチンゲールと関連し、かつ公衆衛生関連のテーマに関する記事を抽出し、42文献が該当した。しかしこれら42文献の抄録の内容からは、ナイチンゲール文献そのものを対象とし、かつ本研究と同様の研究手法を用いた論文は見当たらなかった。

以上の点をふまえて、本研究によるナイチンゲールの3文献を通して見える公衆衛生看護思想の特徴を明らかにすることは、公衆衛生看護学への新たな知見を提供することになると考える。

### III. 研究目的

本研究の目的は、ナイチンゲールの3文献にみる公衆衛生看護思想の特徴を明らかにすることである。

### IV. 研究デザイン

テキストマイニングを用いた「変換型混合デザイン (conversion mixed design)」

\*「変換型混合デザイン (conversion mixed

design)」とは、混合研究法 (mixed methods research; 以下MMR) の新しい枠組みに基づいた質的研究主導型MMRである。この手法には質的データを量的データに変換する「データの定量化」と「データの定性化」がある。「データの定量化」は、たとえば、インタビューやアンケートの自由記述によって得られた質的データであるテキストデータを、単語の出現頻度、単語の共起率、0-1コーディングなどによって数量化し、その結果をもとにテキストデータと照合し比較・検討することで、テキストデータを深く理解することを目指す。<sup>8)</sup>

## V. 研究方法

### 1. 研究対象

以下の英語3文献および日本語3文献を分析対象とした。

#### (1) 英語文献

A文献=「On Trained Nursing for the Sick Poor」(1876)

B文献=「Sick-Nursing and Health-Nursing」(1893)

C文献=「Health Teaching in Towns and Villages」(1894)

#### (2) 日本語文献

A文献=「貧しい病人のための看護」(1876)

B文献=「病人の看護と健康を守る看護」(1893)

C文献=「町や村での健康教育」(1894)

### 2. 分析方法

テキストマイニングの手法を用いた分析

\*テキストマイニングとは、膨大なテキスト(文書)情報を解析し、そこから有用な情報を抽出する方法のことである。日常的に使われている自然言語を、

定型化されていないテキストデータに分解し、それを一定のルールに従って定型化して整理し、データマイニングの手法を用いながら、相関関係などの定量分析を行う手法である。近年はコンピュータソフトウェアの開発も行われている。

本研究では解析ツールにText Mining Studio6.4 (NTTデータ数理システム)を用いた。

### VI. 倫理的配慮

本研究の内容分析の対象は、公開されている文献に限定しているが、文献から本文を引用する場合は著作権等の侵害がないように配慮する。

またテキストマイニングの対象文献については、別途、出版社からの書面による使用許可を得た。

### VII. 結果

分析はテキストマイニングにて、英語3文献および日本語3文献を行ったが、本稿では主に日本語文献の分析結果を中心に以下に記す。

### 1. 基本情報

テキストデータの算出結果は、以下の通りである。

日本語文献では、全文献を統合した述べ単語数は11,188語。単語種別にみると、名詞6,746語 (60.3%) が最も多く、次いで動詞1,818語 (16.3%)、代名詞543 (64.9%)であった。単語数はB文献4,906語、C文献4,488で各全体の約4割、A文献は2,354語で約2割となった。

### 2. 単語頻度分析

単語頻度分析とは、どのような単語が何回出現するかを計上したものである。出現頻度の多いもの上位30語を抽出した。

最も多いのは「看護婦」、次に「健康」、「病人」、「看護」、「危険」と続く。12番目に「保健指導員」、20番目に「地域看護婦」が入っている。

単語頻度分析と、A文献、B文献、C文献の属性をクロスした結果からは、文献ごとに出現する単語に偏りが見られた。つまり、これによって各文献の特徴や性質が読み取れるのである。(図1)

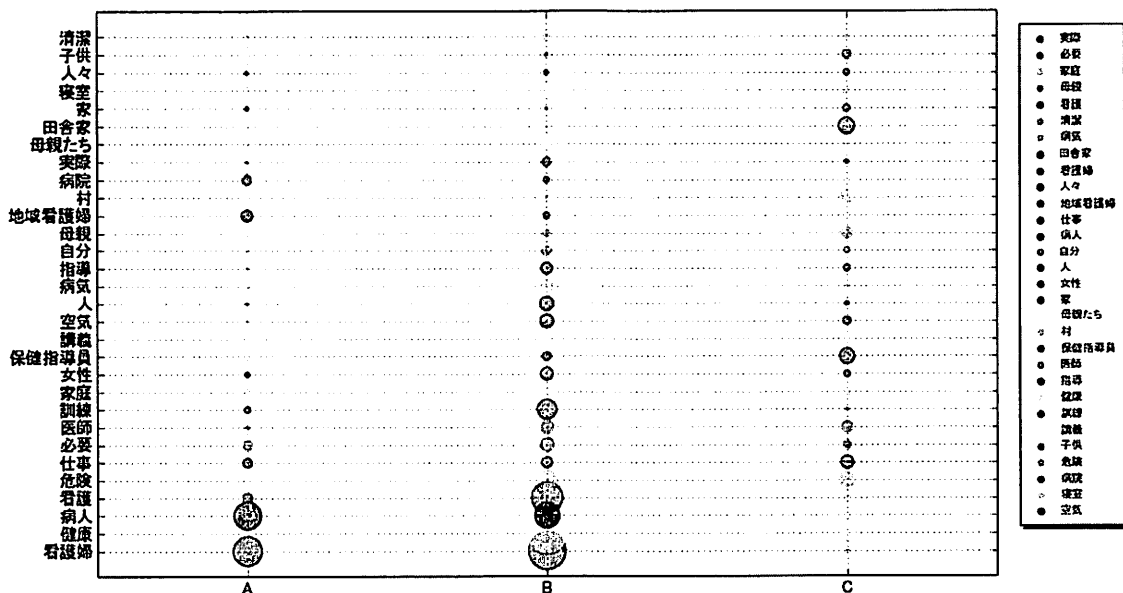


図1 単語頻度クロス表

「看護婦」はB文献に最も多く、A文献にも多く見られるが、C文献にはほとんど見られない。「健康」はB文献に最も多く、C文献にも少し見られるが、A文献にはほとんど見られない。「看護」は、B文献には多く見られ、A文献にも少し見られるが、「C文献には見られない。「病人」は、A文献とB文献には同じくらい見られるが、「C文献」には見られない。「地域看護婦」は、A文献に見られ、B文献にも少し見られるが、C文献には見られない。「保健指導員」は、B文献とC文献には見られるが、A文献には見られない。

英語文献においても、単語出現頻度上位のものは日本語文献と同様の結果を得た。

### 3. 特徴語抽出

特徴語抽出は、データに付随する属性ごとに特徴的に出現する単語を抽出する機能である。単語の出現頻度を集計するだけでなく、抽出指標によって統計的な判定を行い、分析結果を導き出している。本研究におけるA文献、B文献、C文献それぞれの特徴を強く表

す単語を順に表している。指標には「補完類似度」を用いた。「補完類似度」は属性と単語の頻度に関わりがどの程度あるか、無いかを正規化して判定する指標である。属性の片寄りを際立たせるためには「 $\chi^2$ 検定」よりも有効であるとされている<sup>9)</sup>。

本研究においては3文献を分析対象とする上で、各文献の特徴を客観的データから明らかにするために特徴語抽出を用いた。その結果、使用されている言葉から、各文献による特徴の違いが明確となった。

#### 1) A文献について (図2)

A文献の特徴を最も強く表す単語は「看護婦」(指標値100.540)、2番目に特徴的なのは「病人」(指標値89.762)、3番目に特徴的なのは「地域看護婦」(指標値40.384)、4番目は「病院」(指標値20.134)、5番目は「仕事」(指標値23.148)である。他には「必要」、「看護」、「ホーム」、「女性」など、地域看護婦の養成に関することと、地域看護婦の仕事内容が特徴として表れている。

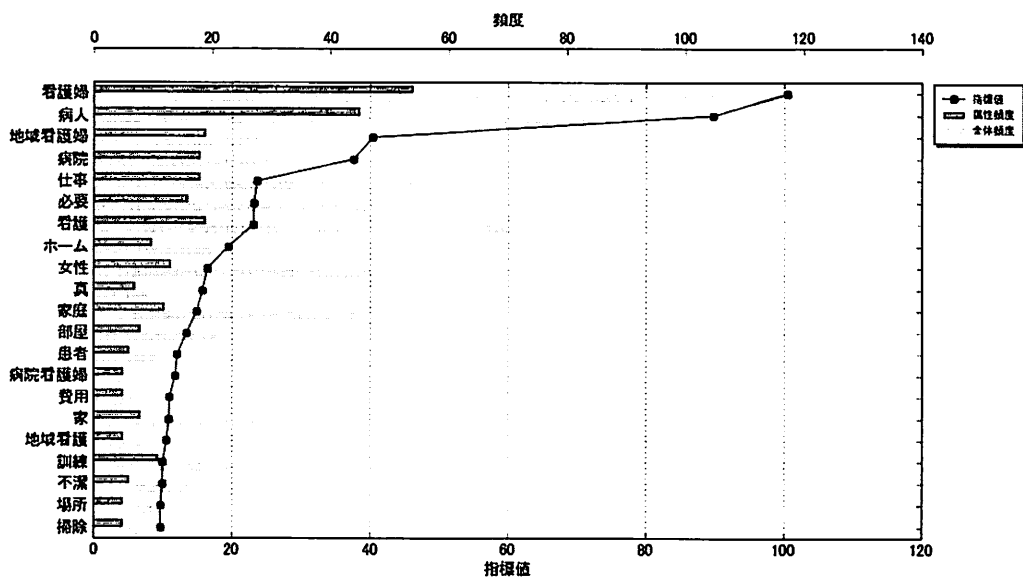


図2 特徴語 (A文献)

2) B文献 (図3)

B文献の特徴を最も強く表す単語は「健康」(指標値48.285)、2番目に特徴的なのは「看護」(指標値35.554)、3番目は「危険」(指標値29.542)、4番目は「訓練」(指標値20.134)、5番目は「空気」(指標値15.747)である。「看護婦」の出現頻度は多くなっているが、他の文献においても多く使われているため、

B文献の特徴を示す指標値は低位となっている。B文献では「健康」が最も強く特徴を表していると同時に、「空気」、「食事」、「病気」、「自然」という単語も表れていることから、B文献がナイチンゲール看護思想の本質を捉えた文献であることを示している。

3) C文献 (図4)

C文献の特徴を最も強く表すのは「田舎家」(指標

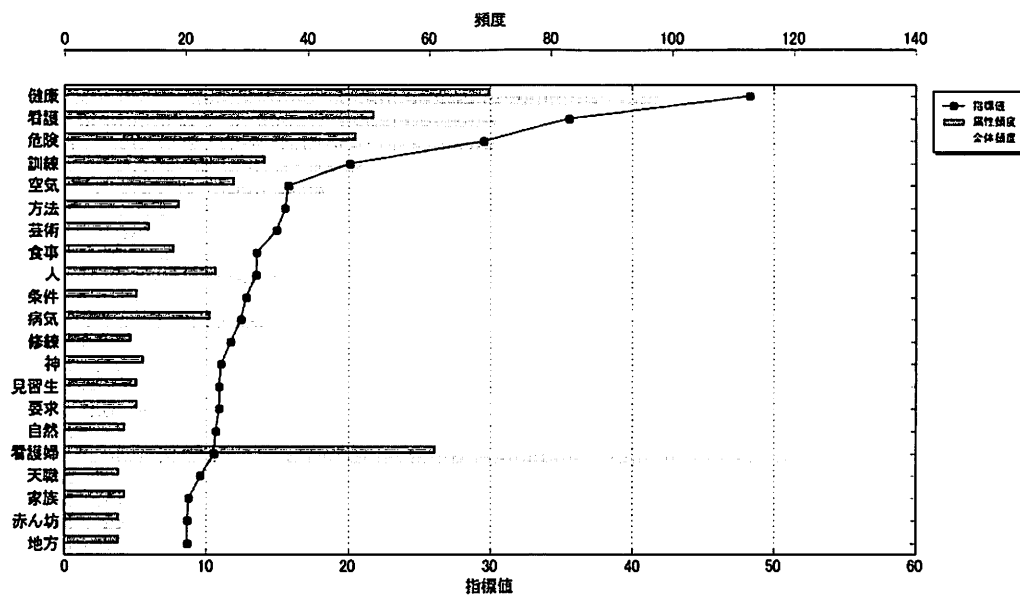


図3 特徴語 (B文献)

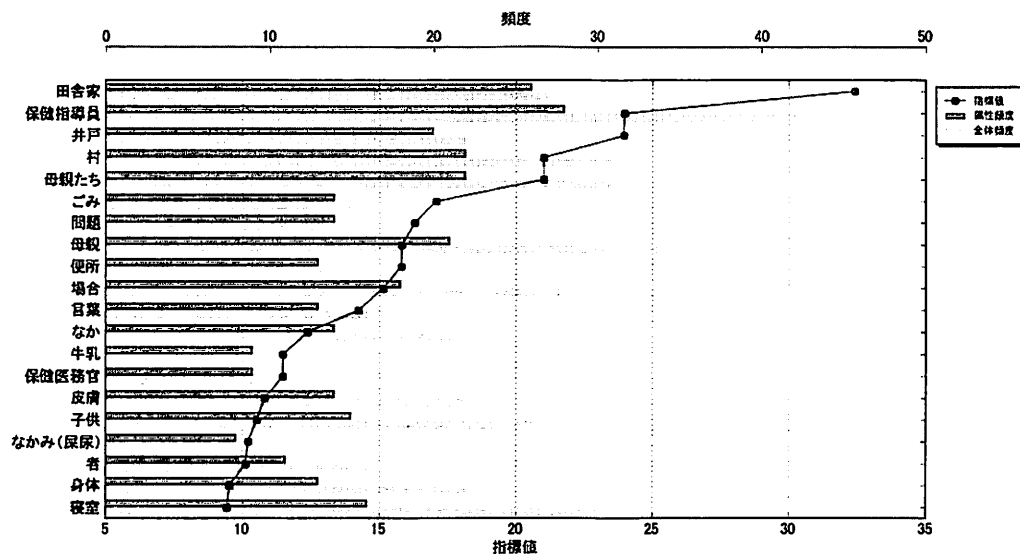


図4 特徴語 (C文献)



値32.397)、2番目に特徴的なのは「保健指導員」(指標値23.979)、3番目は「井戸」(指標値23.957)である。4番目の「村」(指標値21.024)と「母親たち」(指標値21.024)は同レベル、5番目は「ごみ」(指標値12.083)となっている。単語だけをみると一見して看護には無関係の論文のように受け取られるが、本論文ではテーマが「町や村での健康教育」にあるので、とりわけ村の衛生実態と、機構改革の必要性を強調した内容になっている。さらに地域社会の健康維持システムの取りまとめ役となる「保健医務官」との関係性を多くの個所で述べていることを示している。

#### 4. ことばネットワーク分析

ことばネットワークとは、アソシエーションルール(文にXという語が表れれば、Yという語も表れるというルール)にしたがって解析した、ことばとことばの関連を有向グラフによって可視化したものである。ことばネットワーク分析によって共起性の高いもの250ルールを抽出し、各文献中に出現する単語と単語の関連性に注目した。

##### 1) A文献(図5)

A文献では「救貧院の病人の実態」、「地域看護婦」の必要性と養成のための訓練、「貧しい病人」のための真の看護婦の訓練、「家庭における本来の看護」の4クラスターが形成された。

(1)「救貧院の病人の実態」では、〈貧しい〉〈病人〉〈看護〉〈必要〉を中心に、そこに太い線が向かっていることが分かる。これらの単語を含む原文には、以下の要素が含まれている。

- ・ 現在のところ病院は、貧しい病人が看護を受けうる唯一の場所である。
- ・ 結核、不治の癌、卒中、両下肢の潰瘍などの病人の大部分は、病院への入院を認められないが、家

庭で看護できない場合には、教区の費用で救貧院の病院へ送られるのである。

- ・ 究極の目的は、すべての病人を家庭で看護することである。

ナイチンゲールは病院における死亡率の高さに着目し、その実態を調査し、結果として病院の構造改革を行ったのだが、このネットワーク図からは貧しい病人は家庭にあって、訪問看護を受けるべきであると結論づけたことがわかる。

(2)「“地域看護婦”の必要性と養成のための訓練」では、〈看護婦〉〈仕事〉〈医師〉に向かう強い線によってネットワークが広がっている。ここでは、地域看護婦のためのホームの必要性を訴える記述となっている。

- ・ ロンドンの地域看護婦たちに対して、実際的な援助と真のホームを与えようという最初の動きがはじまっている。
- ・ もし看護婦に劣悪なホームをあてがったり、もしくは全然与えなかったりしたならば、あなた方はひどい家に住む看護婦か全然家のない看護婦しか得られないことになる。
- ・ これら地域看護婦は—これは、これまでにはなかったことであるが—医師に代わって患者の脈拍や体温などを含む病人の状態を記録する。

(3)「“貧しい病人”のための真の看護婦の訓練」では、小さなクラスターが見られる。

ここでは、地域看護婦の訓練の重要性とその成果を強調している。

- ・ 地域看護婦は病院看護婦よりもさらに高度な学習を積み十分な訓練を受けていなければならない。
- ・ 病気や死を招く恐れがあり、しかも個人では解決できないような衛生上の欠陥があるときは、それを関係機関に通報する。
- ・ これが地域看護の真の精神なのである。

(4)「家庭における本来の看護」では、貧しい人々に健康的で清潔な家を持たせることの重要性を説き、地域看護婦は自ら率先して清潔な家の作り方を教えることであるという。

この具体的な項目は『看護覚え書』で述べている内容と一致している点に着目したい。

- ・ 看護婦が身をもって掃除をしてほこりを払い、ぞっとするような汚れや不潔をとり除き洗い流し、換気をし消毒し、窓をこすり暖炉を掃除し、古いベッドの包布や絨毯を運び出して振り払い、それを敷き直し、きれいな水を汲んできて釜を満たし、病人や子供たちを洗い、ベッドを作る、などをしてみせる必要がある。
- ・ すなわち、病人が回復《できる》ように、部屋の管理をし清潔を保ち、同居している人にその状態を維持するよう教えるのである。
- ・ これら貧しく病む人々に、再び健康なからだを心

に加えて健康的で清潔な家を持たせようとすることは、何エーカーの贈与や救済にもまして役立つことであろう。

この群では、人々が健康的な生活を自立して送るための看護が述べられている。

2) B文献(図6)

B文献では、「農村の暮らしの実態」、「不衛生による生命の危険」、「乳児・幼児・子供を取り巻く危険」、「保健指導員への訓練」、「本来の看護と健康を守る看護」の5クラスターが形成された。少し離れて存在する一線は、看護婦登録制度に関連した「看護における切迫した危険」を表す。

(1)「農村の暮らしの実態」では、〈空気〉に向かう強い線が多く見られる。

- ・ 新鮮な空気を採り入れることのできない家は、田舎には何百万とあり、町にはさらに多く、また金持ちの家でさえもそういうことがある。

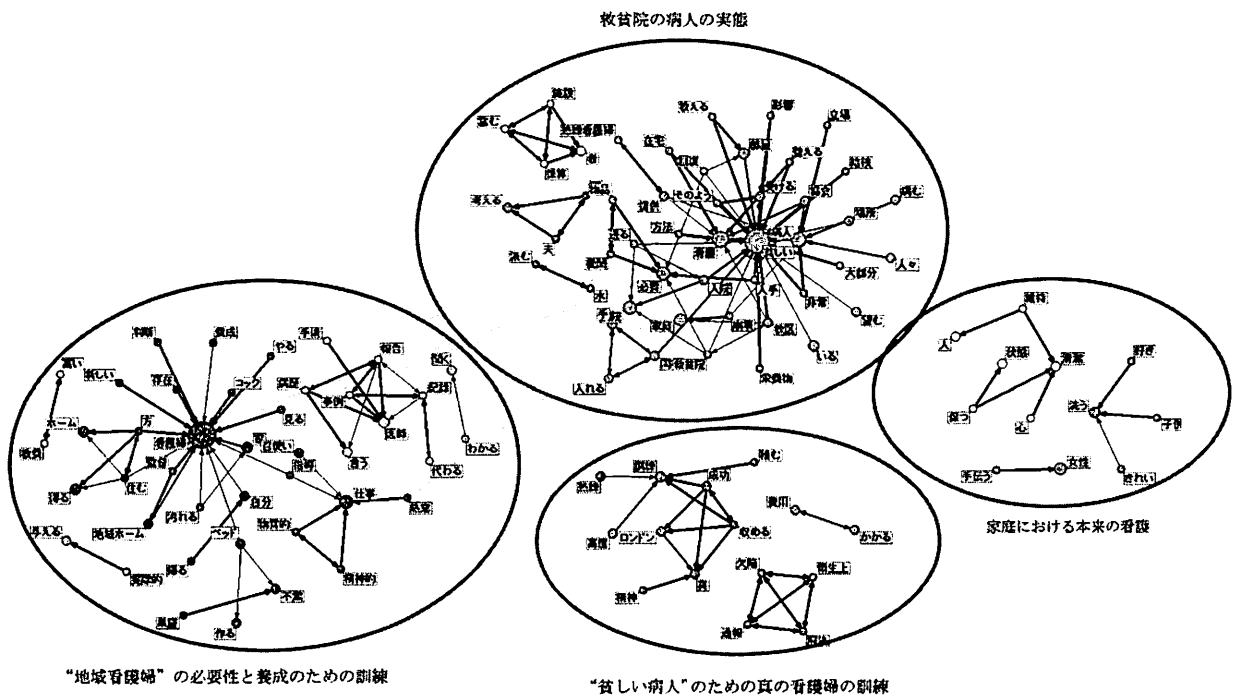


図5 ことばネットワーク (A文献)

- ・ 彼らはカゼや伝染病が人から人に伝わるものだと信じているが、それが不潔な土、汚れた空気、不純な水のためだとは考えない。
- ・ 本来の看護は、処方された薬剤や刺激物を与えたり外科的処置を施したりすることのほかに、新鮮な空気（換気）、日光、暖かさ、清潔さ、静けさを適切に活用し、食事を適切に選択して与えることなど、すべて病人の生命力の消耗を最小にするよう行なうことを含んでいる。

このように、新鮮な空気と清潔な暮らしのあり方に関する単語がネットワークを形成し、それが生命を脅かしていると指摘している。

(2)「不衛生による生命の危険」では、〈危険〉に向かう強い線が見られる。さらに〈便秘〉〈下痢〉〈消化不良〉といった生命の危険を表す単語のネットワークが見られる。

- ・ 食物のくずからの危険・台所のテーブルやまな板の粗い部分にこびりついた油・床板のすき間に入っている食物のくず・鍋や水さしに残っている酸敗したミルク・くずはすべて空気を汚し、新鮮な食物を駄目にし、害虫やネズミやゴキブリなどをひきつける。
- ・ すなわち、主として清潔の欠如、新鮮な空気の欠如、不注意な食事と衣服、洗濯の不足、不潔な羽毛入りベッドと寝具一ひと口で言うならば、それは健康に対する家庭の注意不足である。
- ・ 都市あるいは地方の五歳未満の幼児の死亡率はどうかであろうか。

ナイチンゲールは農村の暮らしの実態を、実に細かく把握していることがわかる。

(3)「乳児・幼児・子供を取り巻く危険」では、単語と単語が互いに強い線で結び合った独特のクラスターを形成している。

- ・ 清潔・食品・便秘と下痢を予防するための食品・アルコールや麻酔剤を子供に与える危険。
- ・ 頭蓋骨がまだ閉じているあいだに子供に重いかぶりものをさせる危険。
- ・ 鎮静シロップを用いることは致命的であること。
- ・ 身体的精神的な病気の前兆—発熱、股疾患、脊柱の彎曲、消化不良、不眠、もの憂げな様子、頭痛、気むずかしさなど、を察知する方法。
- ・ 乳児や小さな子供に何か乱暴なことをする危険—手足を急に引っ張ったり突然からだを動かしたりする、大声を出す、平手打ち、横面をなぐるなどの危険。

ここでも子供たちが受ける具体的な危険についての観察が見事である。当時の乳幼児の死亡率の高さからみて、ナイチンゲールは殊更に、乳幼児の健康管理と母親たちのケアのあり方に着目していることがわかる。

そして「優しさ、安定さ、明るく楽しく、そして新鮮な空気と陽光のなかで育てられ、愛—魂の陽光—にとりまかれている子供で健康でない子供はありえないのである。」と、子供たちを育てる環境にとって何が必要かを説いている。

(4)「保健指導員への訓練」では、〈健康〉を中心としたネットワークが形成された。ナイチンゲールの健康の定義と健康へのナイチンゲールの考え方の基本は、以下の文章に明確に表現されている。

- ・ 健康とは何か？健康とは良い状態をさすだけではなく、われわれが持てる力を十分に活用できている状態をさす。
- ・ したがって、本来の看護は病気に苦しむ病人に生きる手助けをすることなのである。これは、健康な人への看護が、健康な子供や人々の体質を病気のない状態に保っておこうとすることと同じである。
- ・ そして家庭での健康を守る看護もこれと同様に、



したものとして記憶されるべきである。

### 3) C文献(図7)

C文献では、「農村の不衛生な生活実態」、「不衛生による命の危険」、「保健指導員の活動方法」、「母親たちへの健康教育」、「農村衛生の機構改革」の5クラスターが形成された。

(1)「農村の不衛生な生活実態」では、〈田舎家〉〈井戸〉〈寝室〉に向かう強いネットワークが見られる。また〈便所〉〈ごみ〉に向かうやや細い線も多く見られる。当時の農村の不衛生状態を反映した内容となっている。

- ・ 農村衛生の現状。これがまた衰れにしてうんざりするような、語るも恐ろしい話なのである。
- ・ 地上の水および汚水を流す設備は全然ないか、あっても欠陥のあるものがほとんどである。
- ・ 寝室の尿が時に窓から捨てられることもわかっている。
- ・ 給水はほとんどの場合、浅い井戸からなされ、井戸にはふたのないことが多く、しかも大半の井戸は便所の穴や豚小屋ないし、ごみの山からあまり離れていないところであって、不潔物がしみ込み汚染されている。

農村の状態がいかに不衛生であったかが、これを読めば一目瞭然である。

(2)「不衛生による命の危険」では、〈健康〉〈危険〉〈村〉を中心としたネットワークが形成された。

- ・ ある村はポンプをひとつ《設置していた》が、そのポンプが村の一方の端からあまりにも遠いところにあるので、隣接した野原にある池を給水源に使っていた。
- ・ 子供の顔は地面に近いから、土の毒気にあてられて下痢その他の病気が発生している。
- ・ 食物の残り、台所テーブルや肉切り台のでこぼこにたまる油、工事のよくない床のすき間に入った

粉やくず、などによる危険。

- ・ 薬ではなく食事が健康を保証する。
  - ・ 調理の悪い、また半調理の食物は危険である。
- ここではB文献で語られた〈命の危険〉と同じ視点で、さらに具体的な事象を用いて述べている。

(3)「保健指導員の活動方法」では、〈保健指導員〉〈医師〉に向かう線を中心にネットワークが形成された。また〈母親〉〈指導〉も大きな円を示している。

- ・ われわれは、ひとつひとつの地区によく訓練された看護婦と保健指導員とを必要とする。
- ・ 神はすべての母親に必ず医師がついているように計らわなかったが、すべての子供は当然母親によって世話されるというおつもりであった。
- ・ 保健指導員は彼女たちに最大級の同情を示すべきで、それも決して彼女たちを怒らせたりせず、慎重な質問をしてその話を引き出さなければならぬが、それには彼女たちの仲間がどのように《しているか》というよりは、むしろどのようなやり方ならば彼女たちは《いいと思うか》を尋ねるほうがよい。
- ・ 保健指導員は自分の推薦するタオル、ヘアブラシ、歯ブラシなどひとつひとつの値段を知らせることができねばならない。
- ・ 医師は自分の授業に出席した者たちを各村へ連れて行って田舎家を訪問させ、何を観察すべきか、またどのように訪問すべきかを彼女たちに示す。
- ・ 話をしてまわる保健指導員は、田舎家の母親たちの多忙な生活に精通していなければならない。

保健指導員の仕事の仕方、存在のあり方、医師や母親たちとの関係性についてのナイチンゲールの思考がみてとれる。

(4)「母親たちへの健康教育」では、小さなネットワークが複数見られる。ナイチンゲールは健康の守り手と

しての母親を重視し、保健指導員の活動の軸に据えていたことがわかるのである。

- ・ インドで教える女性がインドで教えを受ける女性たちの言葉、宗教、迷信、習慣などに通じていなければならないことは自明の理である。それとまったく同じことが英国の場合にもいえるのも、当然自明の理である。
- ・ 貧しい者を助けたいという関心からわきおこる共感、それぞれの田舎家で母親ひとりひとりと長期にわたる密接な交わりをもつことによるのみ得られるのであって、恩にきせたり、〈言い負かしたり〉〈のぞき回ったり〉しても駄目なのである。

母親たちとの付き合い方、家の中に入るための心得など、事細かに示唆している。

(5)「農村衛生の機構改革」は単語間の小さな共起群となっている。しかしこのネットワーク図は、公衆衛

生看護に関するナイチンゲールの思考の原点である。つまり、彼女が考える地域看護婦や健康指導員がその仕事を果たすためには、機構改革やシステム作りが不可欠であることを教えているのである。

- ・ 現在の公衆衛生の機構はどうなっているか。手きびしい皮肉をこめてそう呼ばれているわが農村《衛生》地区でのそれはどうなっているのであろうか。
- ・ 衛生検査官としては、適当な資格証明を有し医師の賛意を得た者を必要とする。
- ・ 試験により適切な資格証明を得ている衛生検査官には医師の指示のもとで働いてもらいたい。
- ・ 各村にはそれぞれ村の委員会があって、地区委員会を代表している。

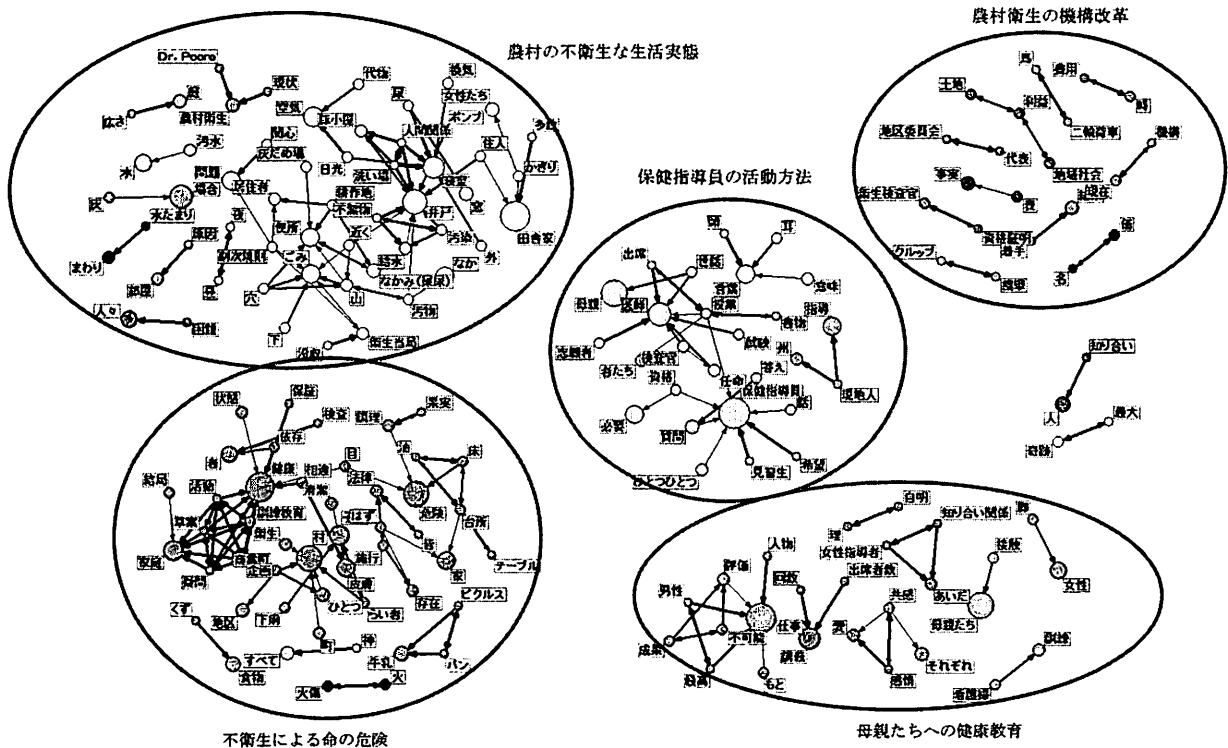


図7 ことばネットワーク (C文献)

## 5. 14のクラスターからみえるナイチンゲールの 公衆衛生看護思想の特徴

各文献の「ことばネットワーク分析」の結果、A文献では4つ、B文献では5つ、C文献では5つのクラスターを確認できた。そこで確認できた合計14のクラスターをサブカテゴリーとして俯瞰したところ、内容に類似性をもつ5つのカテゴリーに分類できた。

第一のカテゴリーは、A文献の〈救貧院病院の病人の実態〉、B文献の〈農村の暮らしの実態〉、C文献の〈農村の不衛生な生活実態〉から導き出される【対象の明確化と実態の把握】である。

第二のカテゴリーは、B文献の〈不衛生による命の危険〉、B文献の〈乳児・幼児・子供を取り巻く危険〉、C文献の〈不衛生による命の危険〉から導き出される【ニーズの把握と課題の明確化】である。

第三のカテゴリーは、A文献の〈貧しい病人のための真の看護師の訓練〉、A文献の〈地域看護師の必要性と養成のための訓練〉、B文献の〈保健指導員の訓練〉から導き出される【専門職の創設と養成】である。

第四のカテゴリーは、C文献の〈保健指導員の活動方法〉、C文献の〈母親たちへの健康教育〉、C文献の〈農村衛生の機構改革〉から導き出される【専門職が機能するためのしくみ】である。

最後の第五のカテゴリーは、A文献の〈家庭における本来の看護〉とB文献の〈本来の看護と健康を守る看護〉の2つから導き出される【健康を守る看護の実現】である。

14のサブカテゴリーと5つのカテゴリーとの関連を視覚化して(図8)に示す。(図8)から、公衆衛生看護の実現に向けて取り組むナイチンゲールの考え方が明らかとなった。彼女は、まず対象を正確に観察、把握して実態を明らかにし、対象が持つニーズを分析して、解決すべき課題を明確にし、課題解決のために

必要な手立てを考え、その実現に向けて行動するという思考過程を把持していた。この思考過程は、今日において順序性をもった公衆衛生看護の展開過程そのものである。活動の目的を【健康を守る看護の実現】に定めていることも明らかになった。

## VIII. 考察

本研究では、ナイチンゲール文献の中から特に英国における公衆衛生看護史の発展と関連する3文献を研究対象とした。これら3文献は執筆された時期や目的は異なる。当然のことながらテキストマイニングの結果からも各文献が示す特徴には明確な違いが見られた。

「特徴語抽出」から得られたA文献の特徴は、本論文が地域看護婦の養成に関することや地域看護婦の仕事内容について強く言及していることがわかる。B文献では、「健康」を守るためには「空気」、「食事」、「自然」に配慮が必要であると強調しており、それはナイチンゲールが看護の本質と定めている看護活動と連携している。C文献では、とりわけ村の衛生実態の具体的に触れ、機構改革の必要性を謳った内容になっている。このように各文献ごとに特徴のある内容構成になっているのであるが、次に行った「ことばネットワーク」の作業を通して、各文献に表われたクラスターの特徴に焦点を合わせて全体を俯瞰したところ、共通するテーマがみえてきた。各クラスターを「サブカテゴリー」と位置付けてみると、全部で14個のサブカテゴリーが現われた。「サブカテゴリー」同士の類似性を見つけて、それらを5つの「カテゴリー」としてまとめた。すると3文献全体を貫くナイチンゲールの思考過程が明らかに見えてきた。

ナイチンゲールの公衆衛生看護思想の特徴は、(図8)として視覚化された。ナイチンゲールは不衛生な環境とそこに暮らす貧しい人々に焦点を当て(対象の明確

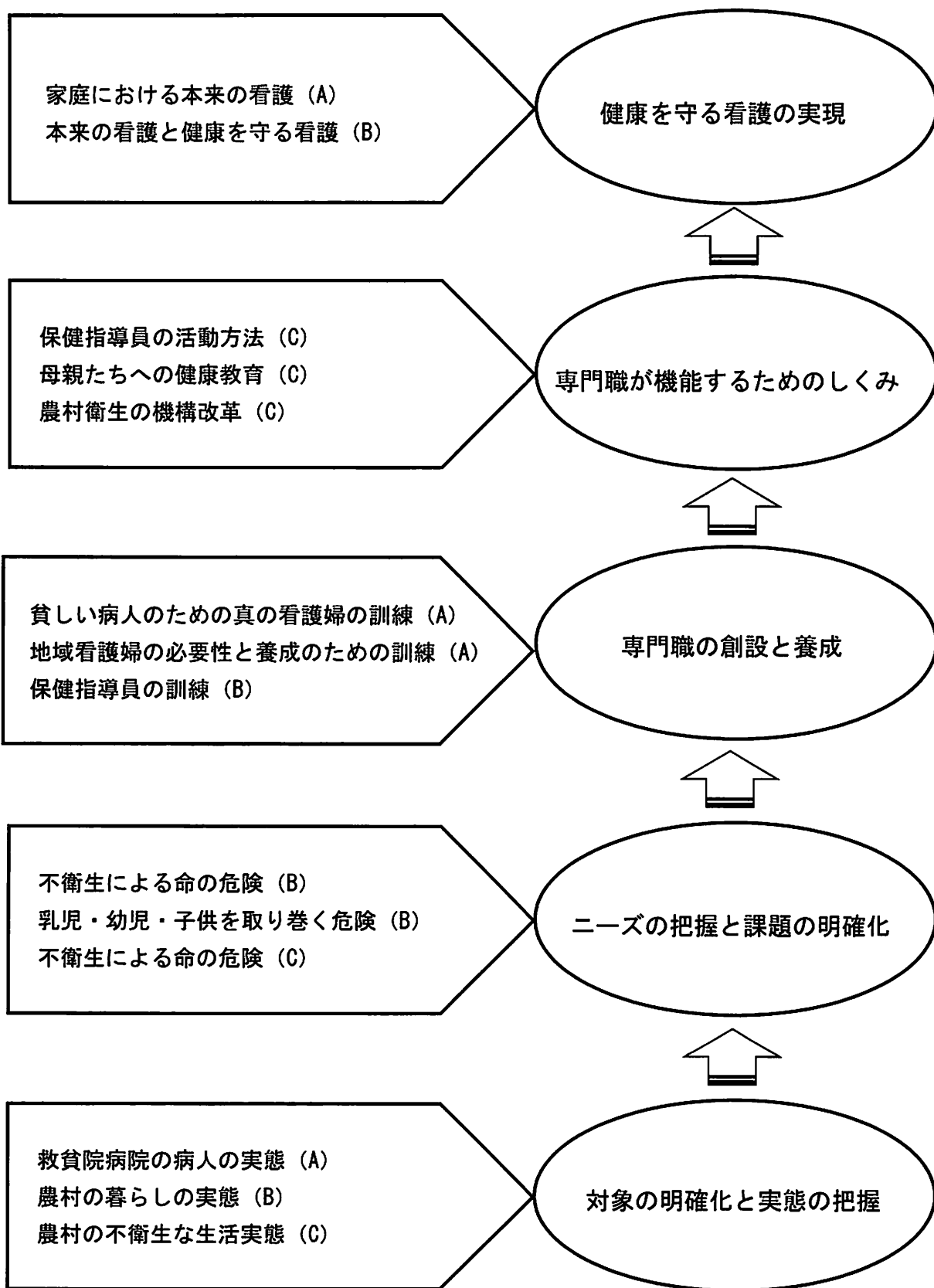


図8 ナイチンゲール3文献からみる公衆衛生看護思想の特徴

\* (A) (B) (C) は文献名



化)、彼らの健康を守り維持するため(目的論)には、いかなる社会の対策が必要かを思考し(方法論)、実現可能な具体策として“地域看護婦”と“保健指導員”という新たな職種を創設し、加えて機構の改革にまで及んだ。

この一連の思考過程は、現代の日本公衆衛生看護学会が定義している「公衆衛生看護」が示す内容に一致している。つまり「公衆衛生看護の対象は、あらゆるライフステージにある、すべての健康レベルの個人と家族、及びその人々が生活し活動する集団、組織、地域などのコミュニティである」という対象論を持つというテーマに合致している。次に「公衆衛生看護の目的は、自らの健康やQOLを維持・改善する能力の向上及び対象を取り巻く環境の改善を支援することにより、健康の保持増進、健康障害の予防と回復を促進し、もって人々の生命の延伸、社会の安寧に寄与することである。」という目的論をもっているということ。加えて「公衆衛生看護は、これらの目的を達成するために、社会的公正を活動の規範におき、系統的な情報収集と分析により明確化若しくは予測した、個人や家族の健康課題とコミュニティの健康課題を連動させながら、対象の生活に視点をおいた支援を行う。さらに、対象とするコミュニティや関係機関と協働し、社会資源の創造と組織化を行うことにより対象の健康を支えるシステムを創生する。」という「方法論」にも合致しているといえる。

したがって、ナイチンゲールが19世紀に提唱し、創り上げた制度は、今日の我が国の公衆衛生看護の先駆けと言えるのである。まさにナイチンゲールは公衆衛生看護の先駆者であった。

本研究で明らかになったナイチンゲールの公衆衛生看護思想は、これからの日本の教育において、もっと強調されて然るべきであろう。日本では、ナイチンゲール

著『看護覚え書』が看護基礎教育の中で広く活用されてきたが、教授する際には病人への看護に焦点を当てられる向きがあった。『看護覚え書』には既に公衆衛生看護の礎となる「すべての人々の健康」を取り込んだ看護の概念がみられている。しかし『看護覚え書』から「予防看護」や「健康を守る看護」という公衆衛生の視点が読み解かれることはほとんどなかった。そのうえ、日本の保健師教育は看護師教育の上積みとして位置付けられてきたために、保健師教育で改めてナイチンゲール思想を学ぶ機会はほとんどなく、ナイチンゲールと公衆衛生看護とは深い繋がりがあるという認識は育っていない。

この研究によって、看護学を学ぶ初期段階の学生に『看護覚え書』を公衆衛生看護の土台として位置付け、教授していく必要性が示唆された。さらに保健師教育においては、晩年のナイチンゲール文献を通してナイチンゲールの公衆衛生看護思想を伝え、その思想の継承を図る必要性があるだろう。

## IX. 結論

ナイチンゲールが書いた3文献からみえる公衆衛生看護思想の特徴は、5つのカテゴリーによって視覚化された。そこからは人々の【健康を守る看護の実現】を図る目的をもって、まず【対象の明確化と実態の把握】を行い、次にそこに潜む【ニーズの把握と課題の明確化】、そして課題解決のために【専門職の創設と養成】や【専門職が機能するためのしくみ】を新たに創設するというナイチンゲールの思考力と実行性が見えた。そしてその内容は現代の公衆衛生看護の定義につながる確かなものであることが明らかとなった。

## X. 今後の課題—おわりに替えて

本研究では、多数のナイチンゲール文献の中から3

文献を厳選した。そのため研究結果には対象文献が限定されたことによる限界を含む可能性がある。今後は

対象文献を広げるなどして、ナイチンゲールの公衆衛生看護思想の更なる深化を目指す必要がある。

**【引用文献】**

- 1) Lucy Ridgely Seymer. (1954). Selected Writings of Florence Nightingale. The Macmillan Company. p.vi
- 2) Florence Nightingale. (1876/1974). 湯楨ます. 薄井坦子. 小玉香津子. 田村真. 小南吉彦(訳), 貧しい病人のための看護. 現代社
- 3) Florence Nightingale. (1893/1974). 湯楨ます. 薄井坦子. 小玉香津子. 田村真. 小南吉彦(訳), 病院の看護と健康を守る看護. 現代社
- 4) Cecil Woodaham-Smith. (1950/1981). 武山満智子, 小南吉彦(訳). フロレンス・ナイチンゲールの生涯(下巻). 現代社. P.354-358
- 5) Florence Nightingale. (1894/1974). 湯楨ます. 薄井坦子. 小玉香津子. 田村真. 小南吉彦(訳), 町や村での健康教育. 現代社

- 6) 多田羅浩三. (2017). 医学の歴史. 左右社. pp.109-117
- 7) Lucy Ridgely Seymer(1957/1978);小玉香津子. 看護の歴史. 医学書院. p.276
- 8) 抱井尚子,成田慶一. (2016). 混合研究法への誘い. 遠見書房. p.28-29
- 9) 服部兼敏. (2010). テキストマイニングで広がる看護の世界. ナカニシヤ出版. p144

**【参考文献】**

- 1) Florence Nightingale. (1876/1974). 湯楨ます. 薄井坦子. 小玉香津子. 田村真. 小南吉彦(訳). ナイチンゲール著作集 第二巻. 現代社
- 2) Lucy Ridgely Seymer. (1954). Selected Writings of Florence Nightingale. THE MACMILAN COMPANY